

成年後見制度10周年記念イベント 「あなたならどうする?～弁護士と一緒に考える安心できる現在(いま)と未来～」

高齢者・障害者の権利に関する特別委員会研修員 平河 有里 (62 期)

2011年2月5日、弁護士会館クレオにて、成年後見制度10周年記念イベント「あなたならどうする?～弁護士と一緒に考える安心できる現在(いま)と未来～」が東京三弁護士会の主催で開催された。

一般市民を対象とするため、自治体や社会福祉協議会、マスコミ関係に広く協力をお願いし、チラシ配布等の宣伝活動を行った。その結果、イベント参加者の署名総数は324名と盛況であり、内訳は、一般214名、自治体・社協関係者36名、福祉関係者19名、弁護士55名であった。

開催にあたっては、東京三会が一致団結し、約1年間かけて、東京三会合同会議を20回以上も開催したのをはじめてとして、多大な時間とマンパワーと情熱を費やして、入念な準備を行った。企画立案では、一般市民の成年後見制度に対する理解を深めてもらうこと及び弁護士の活動をより身近なものに感じてもらうことを目的として定め、アイデアを出し合って、当初予定していたシンポジウム形式を見直して、新たな試みにチャレンジすることになった。

イベントは、栃木敏明弁護士(第二東京弁護士会会長)による開会の挨拶から始まった。

次に、講師の神田織音氏より、成年後見制度の実話をもとにした講談3話が披露された。舞台上には緋毛氈と座布団が用意され、神田氏の華やかな雰囲気と巧みな話芸に、観客は引き込まれている様子であった。親亡き後をテーマにした最後の講談では、涙を拭う観客の姿も見られた。

休憩後、本邦(おそらく)初の試みであるオールキャスト弁護士による模擬相談の実演が行われた。脚本作成では、正確で分かり易い内容であることはもちろん、品位を保ち

つつも笑いや涙の要素を盛り込んで観客を飽きさせないことを目指して、何度も検討が重ねられた。キャスト陣は、初めての舞台に不安を感じながらも、先輩の指導を受けながら、慣れない演技の練習を繰り返してきた。その甲斐あって、キャスト自身、上演しながら観客の温かい反応を直に感じる事ができた。観客から「面白かった」、「分かり易かった」、「成年後見制度を理解してほしいという気持ちが伝わってきた」等の感想をいただけたことは、キャストにとっては何よりも嬉しい成果であった。パワーポイントによるスライドを併用して、用語等を解説した点も好評であった。また当日、NHKの午後6時のニュースで模擬相談の様子が全国に報じられた。

その後、中山二基子会員による解説が行われた。模擬相談の内容を踏まえつつ、中山氏自身の豊富な経験に根ざした説得力のある解説と問題点の指摘は、一般市民にも分かり易く、ためになる上に、弁護士が聞いても勉強になる興味深い内容であった。

イベントの最後は、共催者である東京都福祉保健局生活福祉部部長の藤田裕司氏の挨拶で締めくくられた。

また、参加者にはお土産として「成年後見制度ハンドブック」を配布した。これもイベントのために作成したオリジナルの一冊であり、成年後見制度の基礎知識、Q&A、事例がまとめられ、充実した内容となっている。

終了後、模擬相談等の新しい試みを歓迎する声を多くいただき、イベントの成功を実感することができた。

*表紙裏にカラー写真掲載